

# 令和3年度 さかえホーム 事業報告書

## 1 総括

令和3年4月に、法人の6か所目のグループホームとして定員14名（男性）のさかえホームを開設した。入居者は希望者の中から、法人内の通所事業所を長く利用している方や緊急性等を考慮して選抜し、4月より入居が始まり6月中旬に全入居者の入居が完了した。全入居者のスムーズな新生活への移行を中心に取り組んだが、9月で退所した1名を除き、代わりに入居した方を含め、全入居者が概ね順調に新生活へ移行することが出来た。一方で、職員採用が計画通りに進まず、必要な支援体制を確保するために、職員に大きな負担がかかることとなってしまった。また、経験年数が浅い職員が多く、支援スキルや職員間の連携についても不十分な点が多くなり、入居者一人ひとりへの丁寧な支援という点では多くの課題が残ることとなった。次年度は、職員の確保を進めると共に、職員育成によって入居者支援の充実に力を入れていきたい。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 さかえホーム（ユニット：すずらん、あやめ）
- 2) 事業種別 共同生活援助（日中サービス支援型）
- 3) 所在地 東京都小平市栄町二丁目1番15号
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 14名（すずらん7名、あやめ7名）
- 6) 利用現員 14名（すずらん7名、あやめ7名）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 8) 事業開始年月日 令和3年4月1日
- 9) 職員（令和4年3月31日）
  - 管理者 1名
  - サービス管理責任者 1名（常勤換算0.2）
  - 世話人 7名 ※内2名サービス管理責任者、管理者と兼任  
（常勤換算5.7）
  - 生活支援員 10名（常勤換算6.8）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援  
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築  
安心と希望のもてる生活

- 4 基本方針
  - 1) 安定した日常生活の保障
  - 2) 入居者一人ひとりの主体的な生活の支援
  - 3) 入居者の相談支援
  - 4) 安心できる将来への支援

## 5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供

- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 日中グループホームで過ごす方への必要な支援
- 7) 入浴等生活行為の支援
- 8) その他日常生活に必要な支援

## 6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	日中活動先及び勤務先等へ外出
	}	希望者は日中グループホーム内で過ごす
15時40分～	17時00分	帰宅
16時00分～	20時30分	入浴
18時15分～	19時15分	夕食
20時00分～	23時00分	就寝

## 7 重点課題

### 1) 活動

(1) 入居者が安心して、充実した生活を送れるよう支援する。

- ① 新生活に移行してからの本人の状況の変化などを丁寧に観察するとともに、家族等と情報共有を行うことできめ細かい対応を行う。
- ② 入居者と信頼関係を築くと共に、入居者間の人間関係に配慮し、良好な関係が築けるようにする。
- ③ 安心できる環境づくりを行う（空間・関係性・関わり方・健康管理 など）

#### 【成果と課題】

全入居者14名中13名は週末等を実家で過ごす二重生活をしており、1週間に3泊～4泊の利用となっている（1名は365日グループホームで生活）。入居当初は殆ど入居者が環境の変化に戸惑いや不安感を見せていたが、時間の経過と共に徐々に慣れ、入居者同士の関係も概ね良好で、入居後約半年で新生活に馴染んできた様子であった。しかし、ようやく新しい生活に慣れ始めた8月に、新型コロナウイルス感染症が大流行し、一時的に実家へ帰宅する入居者もあり、当初の見込みより、新生活へ慣れることに時間を要したと感じている。年度後半には、徐々にグループホームと自宅との二重生活に戻ってきたが、1名の入居者については、グループホームでの生活に馴染むことが出来ず、本人の意向により9月に退居した。

#### ④ 事故防止を徹底する

- ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・無断外出行為のある利用者に対し、見守り及び建物内の施錠を徹底する。
- ・整理整頓や環境への配慮など転倒等によるけがの防止に努める。

#### 【成果と課題】

6月に入居者1名が1階の居室窓から飛び出し、無断外出をするという事故が発生した。約10分程度で、一人で居室に戻ったが、大きな事故につながる可能性もあったことから、

それ以降、居室にいる際も職員が所在の確認を徹底することとした。これにより、その後は無断外出をしていない。また、8月と1月に、服薬漏れが1件ずつ発生した。服薬状況が記載されてある個人調査書や服薬時の留意点をまとめたマニュアルは整備し職員へ周知してあったが、マニュアルを遵守しなかったことが服薬漏れの原因であった。再度、マニュアル遵守の徹底について職員へ周知した。

(2) 高齢化に向け将来に備えたホームの機能を拡大する

希望者には、随時面談を実施し、現在必要な支援内容の確認や将来希望する生活について聴取し、これに基づいた支援を行う。

【成果と課題】

今年度は、まず新生活へスムーズに移行できることを最優先に考え、入居後に面談による具体的な意向聴取は実施しなかった。ただし、入居時の面談では、将来的にはグループホームで通院同行や行政手続き、衣類や日用品の買換え等を行ってほしいとの意向が多くあった。令和4年度にグループホームで行っている支援と家族が行っている支援を一覧表に整理し、家族が行っている支援を段階的にグループホームに移行する計画を作りたい。

(3) 個別支援計画の作成・評価に基づいた支援の充実を図る

- ① 家族や関係機関と入居者の状況を共有し、支援計画を丁寧に作成し、半年ごとの評価を実施する。
- ② 個別支援計画に基づき、利用者一人ひとりに丁寧な支援を行う。

【成果と課題】

多くの職員は入居者一人ひとりと丁寧に向き合い、徐々に良い関係を作れてきている。しかし、15名の職員の内、半数以上は職務経験期間が1年未満の職員であるうえ、管理者による指導も十分に行えておらず、入居者の心情理解や日常の丁寧な生活支援等の支援スキル獲得は不十分となった。また、個別支援計画については、入居前の面談や個人調査書をもとに作成し、多くの入居者は、新しい生活に慣れることを支援の目標としたが、事業開始とともに、管理者より支援計画が職員へ周知されていなかったことにより、支援目標に沿った支援や評価についても不十分となった。

2) 人材育成

(1) 新任管理職の育成・指導

管理職を中心に、職員への引継ぎ及び周知事項等の伝達を徹底し、職員の業務の標準化を図る。

【成果と課題】

管理者から職員への指導については、前述のように事業開始直後、個別支援計画を職員へ周知していないなど基本的な事項ができておらず、年度後半に会議等を活用し支援計画の共有を図った。事業の管理業務については、施設長が実践を通して習得中であるが、職員体制が不足している中、現場の支援を優先せざるを得ず、計画通りには進まなかった。次年度も引き続き知識の習得に努めたい。

(2) 職員間の連携・情報共有を図る

入居者予定表・ケース記録・業務日誌・引継ぎノートへの記入の精度を向上するとともに、確認を徹底し職員間の共有を図る。

【成果と課題】

職員間の連携による入居者支援状況等の共有が不足し、チーム支援による入居者支援が十分に実施出来なかった。職員の支援技術等に差があり、支援スキルの全般的な底上げが必要である。

3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

(2) 訓練給付費収入等の安定確保を行う。

・目標利用率： 70%

【令和3年度目標額】

・訓練給付費収入 約2,990万

・都加算収入 約1,220万

約4,210万

【成果と課題】

建物の竣工が約1か月半遅れ、全入居者の入居が完了したのが6月中旬となったことや、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により体調不良や利用自粛により実家等で過ごした入居者が多く目標の利用率に達しなかった。

《利用率》

目標70%、 実績55.2% (目標との差 △14.8%)

《給付費等収入》 ※概算

	目標	実績	目標との差額
訓練給付費収入	2,990万円	2,650万円	△340万円
都加算の収入	1,220万円	1,150万円	△70万円
総額	4,210万円	3,800万円	△410万円

4) その他の課題・目標

(1) 市内グループホームとの連携

新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年度に引き続き、隔月に1回開催する予定であったグループホーム連絡会は1度も実施しなかった。この他、日常で連絡を取り合う機会も殆どなかった。

(2) バックアップ施設による支援

・入居者支援に関する相談や指導

- ・記録や事務業務に関する相談や指導
- ・管理業務の補助

#### <バックアップ施設>

ワークセンター夢の樹、夢の樹みどり、夢風船

#### (3) 夜間等緊急時の対応

夜間の緊急時は、管理者及び主たる職員がその対応にあたることとなっているが、夜間等に緊急体制を要する事案は発生しなかった。

#### (4) 環境の整備

グループホーム内の美化及び整理整頓を行い、衛生保持、また転倒の防止に務めた。

#### (5) 健康管理

##### ①新型コロナウイルス感染症等の感染症対策を徹底する。

日常的に検温、手洗い、消毒等の基本的な感染対策を行った。また、入居者の日中活動先で新型コロナウイルスの陽性者が出た場合は、他の入居者及び家族等へ情報提供を行った他、入居者同士の時間差の食事、1回ごとの浴槽の湯の張替え等の感染対策を実施した。また、希望する職員及び利用者には新型コロナウイルス及びインフルエンザのワクチン集団接種を実施した。

##### ②健康診断・身体測定の結果を基に健康状態の把握に努めるとともに、関係事業所や家族との連携を密にし、健康管理・疾病の予防に努める。

食事作りについては、健康管理のための栄養バランスを意識するとともに日頃運動量が少ないことから肥満防止について特に注意を払った。また、健康状態把握の一つとして、毎月1回の体重測定を実施した。14名中13名は、現在の体重を維持しているが、1名については体重が増加した。入居前の生活と比較し、夕方以降、外出が減ったことにより運動量が減ったうえ完食が増えたことで体重が増加したものと思われる。生活習慣病予防や体重増による関節等への負担を考え、減量について入居者本人と確認していく必要がある。

#### (6) 防災計画

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練についてはコロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

## 8、事故報告

7-1)(1)に記載。

## 9、実施状況

- 1) サービス実施日数 期間 自：令和3年4月1日 至：令和4年3月31日  
 (1) すずらん 365日  
 (2) あやめ 365日

10、利用状況

- 1) 入居者延人員 2,755人  
 2) 一日平均利用人員 16.8人

ユニット	入居者延人員	一日平均利用人員
すずらん	1,442人	4.0人
あやめ	1,313人	3.6人
合計	2,755人	7.5人

11、入居者状況（令和4年3月31日現在）

1) 年齢

- ・ 20歳以上30歳未満 1名
- ・ 30歳以上40歳未満 7名
- ・ 40歳以上50歳未満 6名

ユニット	20代	30代	40代
すずらん		2名	4名
あやめ		5名	2名
合計	1名	7名	6名

2) 障害の状況

(1) 障害の状況

- 愛の手帳2度 9名  
 愛の手帳3度 2名  
 愛の手帳4度 2名（内身体障害者手帳愛の手帳所持 1名）  
 身体障害者手帳3級 1名  
 身体障害者手帳4級 1名（内愛の手帳所持 1名）

(2) 障害支援区分

- ・ 区分2 1名
- ・ 区分3 1名
- ・ 区分4 4名
- ・ 区分5 3名
- ・ 区分6 5名

ユニット	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
すずらん			2名	2名	3名
あやめ	1名	1名	2名	1名	2名
合計	1名	1名	4名	3名	5名

3) 居住状況

- 管内居住 11名 管外居住 3名

4) 性別

- 男性 14名